# 森林やまがた

No.141　2012.9

フォレスト サポーターズ
美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。

目　次

山形県森林・林業功労者のご紹介……2
市町村が事業主体となる
　里山林整備事業を創設しました……3
森林病害虫の防除について……4
全国育樹祭に向けた取組みについて……5
平成24年度第１回やまがた緑県民会議開催……6
県内各地に広がる「絆の森プロジェクト」
　リポート１……7
みどりのページ
　平成24年度春期緑の募金の実績……8
　山形県緑の少年団交流研修大会の実施状況…9
森林管理道「二口線」の開通について……10
センタートピックス
　県産スギ材を使用した木製サッシが完成……11
森の人紹介
　五十嵐幸一さん・笹原忠昭さん……12
村山版「森のようちえん」の普及に向けて……13
林業機械化の現状と課題……14
県立酒田光陵高校全校による森林ボランティア…16
山形県の古木・名木、公共木造施設……17
きのこ用原木の安定供給に向けて……18
県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業…18

（表紙写真は、平成24年８月４日に開催された「夏休み親子科学教室」の活動状況）

# 平成二十四年度
# 山形県森林・林業功労者のご紹介

## ◆はじめに

森林・林業功労者につきましては、毎年、森林・林業の振興及び緑化推進等に顕著な功績があった個人や団体を対象に、

①「森林づくり」部門
②「森林保護保全」部門
③「山村・林業の振興」部門
④「木材・林産の振興」部門
⑤「緑化の推進」部門
⑥「県民参加の森づくり」部門

の六部門を設け、感謝状を贈呈しているものです。

今年度は、「森林づくり」部門から酒田市の荒生周一氏と「木材・林産の振興」部門から鶴岡市の岩浪春吉氏の二名と、「県民参加の森づくり」部門から真室川町の甑山探究会の一団体が選出され、去る、六月二日(土)に鶴岡市の「いこいの村庄内」で開催された「やまがた森の感謝祭２０１２」において、吉村知事から感謝状が贈呈されました。

選出されたお二人と一団体の功績の概要は、次のとおりです。

## ◆「森林づくり」部門

荒生周一氏

植林や所有者が管理出来なくなった森林の整備に務め、長年にわたる森づくりや森林を活用した山菜育成には定評があり、地域の森林づくりに貢献してきました。

また、自己所有林を酒田市や庄内林業研究会の優良林分として展示し指導的役割を果たすとともに、酒田市木づかいネットワークの創設に参画し、地域全体の林業の活性化に尽力されています。

「森林づくり」部門　荒生 周一氏

## ◆「木材・林産の振興」部門

岩浪春吉氏

地域の木材産業のリーダーとして、地域製材業を牽引するとともに、川上から川下までの関連団体による「庄内の森林から始まる家づくりネットワーク鶴岡・田川」の会長として、地域材を使った家づくりの普及に貢献してきました。

また、県内初の水平連携による大型木材乾燥施設の整備に尽力され、庄内材の品質の高度化に道筋を付けられました。

「木材・林産の振興」部門　岩浪 春吉氏

## ◆「県民参加の森づくり」部門

団体　甑山探究会

自然公園甑山を中心に地域の自然環境及び歴史・文化遺産の調査・研究を行うとともに、地元小中学校の児童生徒や地域住民と一体となり、地域に密着した森林環境教育を実践してきました。

また、希少野生生物ハナカジカの保護や登山道等の清掃など環境保全活動を継続的に実施しています。

「県民参加の森づくり」部門　甑山探究会　会長　髙橋氏

## ◆おわりに

荒生様、岩浪様、甑山探究会会員の皆様、誠におめでとうございます。

今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

〔県森林課〕

# 市町村が事業主体となる 里山林整備事業(補助事業)を創設しました

**◆はじめに**

県では、「やまがた緑環境税」を活用し、県民みんなで支える新たな森づくりに取組んでおり、その取り組みは、昨年度で第一期五年が終了しました。

「やまがた緑環境税」は五年目を目途に見直すことにしており、これまでの取り組みの結果や県民の皆さんとの意見交換などを踏まえて、その内容の検討を行ってきました。

昨年九月に、やまがた緑県民会議における検討結果が同会議の高橋教夫議長から県に報告されました。

これに基づき、今年度から「第二期の目玉」として、林業事業体や市町村が事業主体となり、補助事業により森林の整備を行う仕組みを新たに創設しました。

このうち、市町村が事業主体となる里山林整備事業をご紹介します。

**◆事業創設の経緯**

この事業は、「税創設後、新たに森林整備を必要とする森林が増加しているため、これらの森林をいかに整備していくかが課題である」という提言を受けて、新たな荒廃森林のうち、幹線道路沿いなどにあり、景観を悪化させている森林については、地域の要望を調整し、計画的に整備を進める必要があることから、地域の事情に詳しい市町村が自らの裁量で事業を行う、補助事業という仕組みにしたものです。

**◆事業の内容**

一　事業主体　市町村

二　補助率　一〇〇％

三　事業の対象となる経費

①　景観を悪化させている森林の整備に必要な下刈り、除伐、枝落し(枯枝落とし)、つる切り等に要する経費

②　①に必要な事務経費（森林の整備に係る経費の二・五％以内）

四　事業を実施するための主な要件

①　幹線道路沿いなど、景観に配慮した森林の整備であること。

②　森林所有者から里山林整備に関する同意を得ていること。

③　やまがた緑環境税で森林の整備を行ったことを周知する看板を設置すること。

**◆おわりに**

県では、この事業を積極的に進めることで、「やまがた緑環境税」を活用して整備した森林を見る機会が増えることから、税の認知度の向上にもつながるものと期待しています。

この事業の趣旨や内容を御理解いただき、事業のＰＲや実施について、ご協力くださるようお願いします。

〔県森林課〕

**平成24年度山形県里山林整備事業（要望）**

| 市町村名 | 事業内容 | | 作業内容 |
|---|---|---|---|
| | 箇所数 | 事業量（ha） | |
| 河北町 | 1 | 4.8 | 下刈り、枝落し |
| 金山町 | 1 | 27.2 | 除伐 |
| 最上町 | 3 | 7.5 | 除伐 |
| 舟形町 | 2 | 7.4 | 下刈り |
| 鮭川村 | 1 | 1.5 | 除伐 |
| 米沢市 | 1 | 2.0 | 下刈り、除伐 |
| 南陽市 | 1 | 5.0 | 下刈り |
| 川西町 | 3 | 3.5 | 下刈り |
| 飯豊町 | 2 | 8.4 | 下刈り |
| 鶴岡市 | 1 | 6.0 | 除伐 |
| 庄内町 | 1 | 1.0 | 下刈り |
| 遊佐町 | 1 | 7.0 | 下刈り |

整備前のイメージ

整備後のイメージ

# 森林病害虫の防除について

**◆県内で発生した森林病害虫被害**

山形県では、被害が急激に拡大した森林病害虫に対して、森林病害虫等防除法に基づき、国・市町村・森林組合等と連携して、防除事業を実施してきました。ここで、主な森林病害虫防除の実施状況についてご紹介します。

**◆松くい虫被害**

松くい虫被害は、マツノマダラカミキリが媒介した線虫による通水障害でアカマツ・クロマツ等が枯死するものです。県内では昭和五十三年に山形市で確認されて以来、全県に被害が拡大しました。防除は、被害木の伐倒・薬剤処理を中心に行ってきましたが、平成十五年度の八万四千本（民有林内）をピークに減少傾向となり、平成二十三年度では三万二千本（同前）でピーク時の四割以下となりました。

現在は、遊佐町北部での国営防除事業及び庄内海岸林での国庫補助事業による重点防除、山形市山寺地区等の景勝地での松林保全のための薬剤注入を行っています。

特に庄内海岸林の防除では、特別伐倒駆除を実施し、被害木を木材チップや燃料用ペレットの原料にすることにより、マツノマダラカミキリの駆除と併せて被害材の有効活用を推進しています。

チップ

ペレット

**◆ナラ枯れ被害**

ナラ枯れ被害は、カシノナガキクイムシが媒介したナラ菌による通水障害でミズナラ・コナラ等が枯死するものです。県内では昭和三十四年に旧温海町内で発生しましたが数年で終息。その後、平成三年に旧朝日村内で再発してからは、全県的に被害が拡大しました。平成二十二年度には過去最高の被害量で、十七万六千本（民有林内）の被害となりましたが、平成二十三年度は十万六千本（同前）と前年の六割の被害量になっています。

対策としては、集落周辺で生活環境の保全上重要なナラ林を守るとともに、倒木等による二次被害を防止するため、国庫補助事業、やまがた緑環境税事業及び市町村総合交付金事業等により防除を実施しています。

予防薬の注入や被害木の伐倒・薬剤処理などの単木的な防除とともに、新しく農薬登録された、カシノナガキクイムシを誘引する合成集合フェロモン剤を使った面的防除の実証試験も行っています。

**面的防除実証試験の実施状況**

合成集合フェロモン剤をおとり丸太となるナラ材に設置する。

**◆その他の森林病害虫被害**

その他の森林病害虫被害としては、平成十五年度からカツラマルカイガラムシによる枝枯れ被害が発生しています。防除方法としては被害木への薬剤注入が有効であり、市町村総合交付金事業の対象になっています。

また、平成十九年度からウエツキブナハムシによるブナ葉食害も発生していますが、通常三～五年間で終息し、ブナの枯死には至らないと言われていることから、推移を注意深く見守っているところです。

さらに、昨年秋に朝日山系の主峰、大朝日岳の山頂付近（国有林内）でマツノクロホシハバチによるハイマツの葉の食害が確認されました。

マツノクロホシハバチの幼虫

高山帯に自生するハイマツ林が広範囲に枯死することは山地保全上の影響も大きいため、所管する東北森林管理局が被害状況の警戒監視を行っています。

〔県森林課〕

# 全国育樹祭に向けた取組みについて

## 全国育樹祭開催準備連絡協議会の開催

**◆はじめに**

県では、平成二十三年十二月の県議会において平成二十六年度全国育樹祭の開催誘致を表明、本年四月十七日には、国土緑化推進機構に対し平成二十六年度開催の申請を行ったところです。

**◆全国育樹祭とは**

全国育樹祭は、国土緑化運動の国民的行事で昭和五十二年度から毎年秋に皇太子・同妃両殿下ご臨席のもと開催されています。

全国植樹祭で天皇・皇后両陛下がお手植えになった木を皇太子・同妃両殿下が施肥や枝打ちなどを行う「お手入れ」行事や参加者による記念育樹、式典などが行われます。

また、前日に、併催行事として、全国みどりの少年団活動発表大会と育林技術交流集会が、当日及び翌日には、記念行事として森林・林業・環境機械展示会が開催されます。

**◆全国育樹祭開催準備連絡協議会**

県では、平成二十六年秋までに期間が短いことから、開催県の正式な決定を待たずに、本県開催を想定して全国育樹祭開催準備連絡協議会を六月十五日に立ち上げました。

連絡協議会は、開催準備が円滑に進むよう設置するもので、全国育樹祭の骨格となる基本計画案の検討を行います。

基本計画には、開催場所や参加人数、式典行事などの開催概要や大会テーマ、シンボルマークなど開催にあたっての基本的な事項が盛り込まれます。

第34回全国育樹祭の様子（群馬県）

**◆今後の予定**

八月二十九日に、国土緑化推進機構の理事会において平成二十六年度の全国育樹祭開催県が決定されることになっております。

ここで本県開催となった場合は、十一月から十二月頃に式典会場の決定が行われ、その後大会テーマ、シンボルマーク等の決定も行われる予定です。

また、年度内には、基本計画を策定し、全国育樹祭の実行組織である実行委員会に移行していく予定となっております。

これらの事項につきましては、決まり次第、本紙や広報等などで報告させていただきます。

**◆大会テーマ、シンボルマーク**

大会テーマやシンボルマークについては、育樹祭を広く県民にアピールするため作成するもので、作品については、県内の方から募集を行います。

募集開始は、九月三日（月）ですが、詳しくは、「県民の歩み」や県のホームページなどに掲載しておりますので、ご覧いただき応募していただくようお願いします。

皇太子殿下お手入れの様子（群馬県）

**◆おわりに**

本県で全国育樹祭を開催することは、県民の皆様に森林の持つ機能の大切さや森林に親しむ心、そして森林を活かすことなどを理解していただく機会になります。

また、東日本大震災からの復興に向けたシンボル的行事として東北から全国に「元気」を発信できる機会と考えております。

全国育樹祭を本県にとって有意義で魅力ある祭典にしていきますので、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

〔県みどり自然課〕

# 平成二十四年度 第一回やまがた緑県民会議開催

**◆はじめに**

平成二十四年度の第一回やまがた緑県民会議を六月十四日（木）に村山総合支庁西庁舎（寒河江市）にて開催し、二十四年度事業計画について協議いただくとともに、事業実施箇所の現地視察を行いましたので報告します。

**◆平成二十三年度事業実績**

平成二十三年度やまがた緑環境税活用事業の実績について、報告を行いました。

荒廃森林緊急整備事業四億六千万円、県民みんなで支える森・みどり環境公募事業二千八百万円、みどり環境交付金事業八千七百万円など総額六億五千八百万円を執行しました。

**◆平成二十四年度事業計画**

平成二十四年度やまがた緑環境税活用事業のハード事業とソフト事業について協議を行いました。

**一　ハード事業について**

荒廃森林緊急整備事業については、新たな仕組みとして次の三点を加え、より効果的に税を活用した事業を展開していきます。

① 森林整備の区分に応じて国庫補助制度を活用

② 里山林におけるナラ枯れ被害の拡大による倒木など、二次被害が発生する恐れのある森林を整備対象に追加

③ 幹線道路沿いなど景観が悪化した里山林について、市町村による森林整備を実施

**二　ソフト事業について**

昨年度、やまがた緑環境税導入から五年目を迎え、制度全般の評価・検証の中で提言をいただいた「税の認知度向上のための普及啓発事業の拡充」について、二十四年度は、

① 環境税活用事業の取組みやトピックスなどを掲載した広報誌を発行

② 大型ショッピングモールや市町村イベントで、税ＰＲパネルを展示するとともに、木工クラフト体験コーナーを併設して、周知を強化

③「みんなが森の応援団！」のホームページをリニューアルし、森づくりイベントや活動情報、税関連情報などをメールマガジンで配信

などに新たに取り組むこととし、税事業の一層の認知度向上に努めていきます。

委員からは、「県の担当者に事業実施の現場を見てもらい、地域の人たちは自分たちの思いを聞いてもらい大変喜んでいた。今後も現場で活動している人の思いを聞いてほしい。それにより税の認知度はさらに高まると思う」などの意見をいただきました。

**◆現地視察**

会議終了後は、西村山管内で現地視察を行いました。荒廃森林緊急整備事業を行った箇所（西川町、寒河江市）と、「※やまがた絆の森プロジェクト事業」の実施企業である日東ベスト株式会社の「にしかわ絆の森」を視察し、担当者から直接説明を受け、活発な意見交換がなされました。

（※…企業等と森林所有者と県との三者協定による森づくり活動）

委員の方々には整備箇所や企業の森づくり活動の状況を実際に見ていただくことにより、税活用事業への理解を深めていただくよい機会となりました。

〔県みどり自然課〕

第１回やまがた緑県民会議の模様

現地視察の模様：西川町沼山
（やまがた絆の森プロジェクト事業）

# 県内各地に広がる「やまがた絆の森プロジェクト」

リポート1

## ◆はじめに

県では、県民や企業等の多様な主体が気軽に森づくりに参加し、活動の成果が実感できるシステムとして、「やまがた絆の森プロジェクト」を推進しており、今年三年目を迎えました。

企業が主体となり、環境保全や社会貢献の一環として森づくりに取り組む「やまがた絆の森協定」は、現在、二十七の企業・団体が参加しており、着実に広がりを見せています。

これら企業が取り組む森づくり活動について、二回にわたりご紹介します。

## ◆にしかわ絆の森

日東ベスト株式会社は、今年二月に県と西川町、西川町沼山区と「やまがた絆の森」協定を締結し、六月九日から西川町の大沼キャンプ場に隣接する山林で「にしかわ絆の森」を開始しました。

同社は、業務用冷凍食品等を製造・販売する企業であり、製造過程で使用している水を育む上流域の森を保全するため、森づくり活動に取り組み始めました。

また、同社はラ・フランスを研究する過程で、剪定した枝に美白有効成分が多く含まれることを発見し、抽出したエキスを利用した基礎化粧品も開発しました。この化粧品の販売に合わせて、化粧品の売り上げの一部を森づくり活動に役立てることにしています。この剪定枝を活用する環境循環の取組みは、本年度の県環境保全推進賞の県知事賞を受賞しました。

これらの取組みは、単に新しいビジネスモデルを構築しただけではなく、環境貢献・地域貢献の観点からも、県内外から大変注目されています。

植樹後、記念撮影を行う参加者の皆さん

## ◆天童・不思議の森

天童市内の四つの企業（株式会社滝の湯ホテル、東北パイオニア株式会社、株式会社新東京ジオ・システム、株式会社天童木工）が、天童・不思議の森として、貫津地区の公社造林地で森づくり活動を行っています。

天童・不思議の森は、平成十五年に県内初の「企業の森づくり」としてスタートしました。今年二月に、改めて県、山形県林業公社と協定を結び活動を開始しました。

毎年春と秋に、林業公社や地元の協力を得ながら、森の手入れやキノコ植菌・収穫作業を行う予定です。昼食を兼ねた交流会では、冷やしそうめんや収穫したキノコ入り芋煮汁で参加者の交流を深めています。

最近では、天童木工の業種を活かして、森づくり活動で間伐した木を材料に、ベンチを製作しました。製作したベンチは、天童市の保育園や施設に贈られ、園児や地域住民に大変喜ばれています。

ラ・フランスの剪定枝から抽出した
美白有効成分配合の基礎化粧品

## ◆おわりに

企業が取り組む「やまがた絆の森」は、森づくりを通して企業と地域の積極的な交流を目指したものであり、里山資源と企業の企画力の組合せによる地域の活性化や新たなビジネス展開などが期待されています。

今回ご紹介した取組みは、企業が得意とする職種を活かした新たな環境貢献、地域貢献の例として、注目を集めています。

県では、今後も「やまがた絆の森」を積極的に進め、里山・山村地域の活性化を図ってまいります。

〔県みどり自然課〕

実際に間伐した材を使ってベンチを
製作し、天童市に寄贈しています。

みどりのページ

## 平成二十四年度春期緑の募金の実績

平成二十四年度春期の募金実績は次のとおりです。

**◆募金期間**

平成二十四年四月一日から
五月三十一日まで

**◆募金の種別**

家庭募金・街頭募金・職場募金・学校募金・企業募金・その他

**◆募金の実績額**

千八百二十六万八千円

**◆募金の状況**

昨年同時期に比べ僅かに減少しましたが、街頭募金や企業募金、学校募金などは増加傾向にあり、緑の大切さへの理解や環境意識の高まりがうかがわれます。これからも、より一層県民のみなさまのご理解を得られるよう努めて参ります。

**◆今後の緑の募金活動**

秋期緑の募金活動期間は、九月一日から十月三十一日までとなっております。

今後とも、みなさまからのご協力をよろしくお願い申し上げます。

## モンテディオ山形ホームゲームでの緑の募金活動

今年度初めての試みとして、モンテディオ山形のホームゲームの開催に合わせ、五月六日（日）に山形県総合運動公園で緑の募金活動を実施しました。

ゲーム開始前の短時間での募金活動でしたが、一万三千四百六円の善意が寄せられました。集客力の高い場所で行う緑の募金の効果は大きく、また、多くの方々に緑の募金を知ってもらうことができました。これからも工夫を凝らし、募金額の増加につながるように努めて参ります。

山形県総合運動公園での募金活動の様子

**H24春季　緑の募金実績一覧表**

単位：円

| 種　別 | 家　庭 | 街　頭 | 職　場 | 企　業 | 学　校 | その他 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H24春期 | 8, 314, 420 | 210, 719 | 3, 144, 536 | 1, 809, 514 | 4, 298, 722 | 490, 916 | 18, 268, 827 |
| H23春期 | 8, 637, 507 | 147, 582 | 3, 153, 754 | 1, 770, 328 | 4, 221, 384 | 382, 005 | 18, 312, 560 |
| 増　減 | △323, 087 | 63, 137 | △9, 218 | 39, 186 | 77, 338 | 108, 911 | △43, 733 |

### 緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま(H24. 4. 1～6. 30)

〔山形県みどり推進機構取扱い分〕

余目ロータリークラブ、小川建設㈱、尾花沢中央ロータリークラブ、㈱日下部工務所、国際ソロプチミスト山形、㈱齋藤建設、寒河江さくらんぼロータリークラブ、寒河江ライオンズクラブ、寒河江ロータリークラブ、全国農業協同組合連合会山形県本部、新庄信用金庫、全国共済農業協同組合連合会山形県本部、全国健康保険協会山形支部、大伸建設㈱、天神森調剤薬局、天童ロータリークラブ、東部土地改良区、東北電力㈱山形支店、長井ロータリークラブ、南陽東ロータリークラブ、南陽ロータリークラブ、西置賜ふるさと森林組合、西村山建設業協会、日本健康管理協会山形健康管理センター、農林中央金庫山形支店、東根ロータリークラブ、フジハラ自動車、みこころの園、村山ロータリークラブ、山形イブニングロータリークラブ、山形県医師会、山形県看護協会、山形県企業振興公社、山形県軽自動車協会、山形県後期高齢者医療広域連合、やまがた健康推進機構、山形県国際交流協会、山形県国民健康保険団体連合会、山形県産業技術振興機構、山形県市町村職員共済組合、山形県社会福祉協議会、山形県住宅供給公社、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、山形県中小企業団体中央会、山形県町村会、山形県土地改良事業団体連合会、山形県農業共済組合連合会、山形県埋蔵文化財センター、山形県理化学分析センター、山形県林業公社、山形農業協同組合、㈱山口製作所、遊佐ロータリークラブ、我妻建設工業㈱

（敬称略、五十音順）

みどりのページ

# 山形県緑の少年団交流研修大会（おきたまグリーンジャンボリー）の実施状況

**◆期　日**

平成二十四年八月二日～八月三日（一泊二日）

**◆会　場**

小国町「健康の森横根」及び「ブナの森温身平（ぬくみだいら）」

**◆主　催**

山形県緑の少年団交流研修大会実行委員会（山形県緑の少年団連盟、山形県、小国町、置賜林業推進協議会、山形県みどり推進機構）

**◆大会の概要**

県内各地の緑の少年団が相集い森林をフィールドとした体験学習や共同生活を通じて、緑と親しみ、緑を愛し、緑を未来につなぐ心を育むことを目的とした、山形県緑の少年団交流研修大会（おきたまグリーンジャンボリー）が小国町を会場に開催されました。

**◆参加者数**

県内の緑の少年団員及び小国町の小学生　九十六名

**◆開会式・活動発表大会**

開会式は、おぐに開発総合センターで行われました。横戸長兵衛緑の少年団連盟会長のあいさつ、就任されたばかりの盛田信明小国町長から歓迎のあいさつをいただいた後、四つの少年団による緑の少年団活動発表大会が行われました。

活動発表大会の様子

いずれの少年団も日ごろの活動の様子を大変わかりやすく発表し、レベルの高い発表大会となりました。厳正な審査の結果、最優秀に吉野緑の少年団が、優秀に宮浦キッズクラブ、大石田小学校緑の少年団、金山小学校みどりの少年団がそれぞれ選ばれました。

**◆初日の活動**

活動発表大会の終了後、健康の森横根に移動して四班に分かれ、イワナのつかみどり、つかまえたイワナを塩焼きするための竹串づくり、スラックライン（木と木の間にベルトを渡して行う綱渡り）、ロープを使った綱渡りを順番に体験しました。

イワナのつかみどりの様子

体験活動の後は、みんなでカレーをつくりました。みんなで協力しあいながら作ったカレーは格別でした。また、つかまえたイワナも一緒にいただきました。

夜は、光に集まる虫の観察会を行いました。

**◆二日目の活動**

二日目は、全国初の森林セラピー基地として認定された「ブナの森温身平」に活動場所を移し、森林セラピーアテンダントの案内で温身平の散策を行いました。

アテンダントによるわかりやすく丁寧な解説のもと、五感をフルに使って真夏のブナ林を楽しみました。

お昼は、自然の食材がいっぱいのセラピー弁当を森の中でいただきました。

ブナの森温身平 散策の様子

**◆おわりに**

二日間ともに気温三十度を超える猛暑の中での活動となりましたが、参加した子供たちは大自然の中での活動を存分に楽しみ、小国町をあとにしました。

最後に大会の開催にあたりご協力いただいた皆様に対し、厚くお礼申し上げます。

（㈶山形県みどり推進機構）

# 森林管理道「二口線」の開通について
## ～今年の本県側は八月十日に開通～

### ◆十二年ぶりの全線開通

森林管理道「二口線」は、山形市山寺と仙台市太白区秋保町を結ぶ全長約十九キロメートルの県境を越える林道ですが、沿線には風光明媚な箇所や秋にはすばらしい紅葉が見られることから、地元からは地域振興に寄与する観光ルートとしても期待されております。

当林道は、豪雨などにより被災したことから、宮城県側は平成十一年度から、山形県側は平成十九年度から通行止めが続いていましたが、両県の工事が昨年の十月末までに完了したことから、十月三十日から十一月六日までの約一週間、十二年ぶりに全線開通させることができました。

開通当日の十月三十日は、山寺と秋保両地区において、地元主催の開通式が盛大に行われ、十二年ぶりの全線開通を盛り上げました。

### ◆全線開通の状況

全線に渡る供用期間は約一週間と短かったにもかかわらず、天候に恵まれたこと、紅葉の時期と一致したこと、十二年ぶりの開通で話題性があったことなどが幸いして、全国の多くの皆様からお越しいただき、期間内の通行車輌は約七千台にも達しました。

これは、山寺から秋保方面へ、秋保から山寺方面へ、それぞれ約三千五百台の車輌が行き来したことになり、一日当たりに換算すると約九百台の車輌が通過したことになります。

このため、林道の至る所で交通渋滞が発生しましたが、幸いなことに人身事故は発生しませんでした。

通行車輌のナンバーは東北各県や新潟県のほか、遠くは奈良県や京都府なども見られました。

また、自転車や徒歩で通行する人も多く、中には山寺駅まで電車で来て徒歩で県境越えをする人、秋保から歩いて来て再び秋保に戻って行った人なども見られました。

### ◆地元への影響

山寺観光協会では、「昨年は東日本大震災などの影響で、山寺を訪れた観光客は例年の約七割程度まで落ち込んでいましたが、二口線の全線開通により例年並みの観光客数に回復した」と話しております。

このことから、一時的ではありますが、森林管理道二口線の全線開通は山寺の交流人口の拡大に貢献したと判断することができます。

多くの車輌等が通過した二口線

### ◆今年度の開通予定

本県側は、お盆前の八月十日から十月末まで、県境までの区間を開通させる計画です。通行時間帯は午前九時から午後五時ですが、路面凍結など通行上の危険が認められる時は閉門する予定です。

一方で、舗装路面の劣化が著しい箇所などの修繕工事を九月ころから行いますので、工事期間中は、一時的な全面通行止め措置などを伴う場合があります。

また、今後、豪雨等により被災した場合なども、全面通行止めにすることがあります。よろしくご理解をお願いします。

なお、宮城県側では、豪雨等により傷んだ路面の不陸整正等の工事を行い、十月中に供用を開始する計画で進めているところです。

### ◆安全運転のお願い

森林管理道二口線はあくまでも林業用施設です。通行なさる方は、次のことに十分留意してください。

① 見通しの悪い急カーブや急勾配箇所、道路幅が狭小な所は、徐行運転の徹底をお願いします。

② 設計速度は時速二十㌔です。特に、山形県側は全線舗装されておりスピードが出やすい環境です。設計速度厳守をお願いします。

### ◆おわりに

村山総合支庁では、安全通行を最優先に、宮城県と連携しながら二口線の通行管理に努めてまいりたいと考えております。

〔村山総合支庁森林整備課〕

センタートピックス

# 県産スギ材を使用した木製サッシが完成

## 〈地域材利用開発プロジェクト〉

### ◆はじめに

県産スギ材は、製材用材、合板用材、土木用資材、バイオマス資源などの分野に利用されているが、新設住宅着工数の低迷等から建築用材の利用量は減少傾向にあります。

建築物の窓枠は、ほとんどが金属や樹脂製ですが、生活様式の多様化・環境志向等により、個人住宅や公共建築物において木製サッシの導入が散見されるところです。

このような状況から、県産スギ材の新たな用途として木製サッシに注目し、製品化のための技術開発を行いました。

### ◆地域材利用開発プロジェクト

山形県森林整備促進・林業等再生基金事業により平成二十一年度から三ヶ年間実施しました。

県産スギ材を活用する際の技術的な課題として、外的因子により劣化する、乾燥により割れが生じる、加工精度が要求されることがあげられました。そこで関連技術に精通する研究機関と民間の三者が共同して研究を行いました。

木製サッシ用県産スギの乾燥試験

### ◆研究の概要及び成果

山形県工業技術センターは、県産スギ材の表面処理・塗装処理による耐候性技術の開発を担当し、森林研究研修センターは、木製サッシに適した乾燥技術の開発、アルス株式会社（木製サッシ製作会社）は、製品の試作と性能認定試験を担当しました。

一般住宅用の構造材の含水率は二〇％程度ですが、これを半分以下に低下させ、曲り、割れ、収縮、ねじれなどを極力抑える必要があります。

これまでの木製サッシの材料には、年輪幅が狭く、節も無く、耐久性などに優れているベイマツや青森ヒバ（集成材）などが使われてきました。

スギ材を木製サッシの窓枠材として利用する場合は、部材が細いことや加工後の狂いを少なくするため低含水率とする必要があり、含水率の目標を八％としました。

木製サッシの窓枠材用として、幅一〇五㎜、厚さ七〇㎜、長さ一・八ｍの外枠材、幅七〇㎜、厚さ八五㎜、長さ一・八ｍの内枠材用に無節のスギ材を購入し人工乾燥試験を行いました。

あらかじめ含水率一二％程度まで低下させた後、中温の人工乾燥機で一四四時間乾燥すると目標とする含水率八％まで乾燥することができました。この乾燥工程で、収縮や曲り等の歪みは発生せず、寸法の減少率も一％以下に止まり、木製サッシの材料として利用することができました。

### ◆スギ木製サッシの完成

当センターで人工乾燥した窓枠材で試作した木製サッシに県工業技術センターで保護塗装を施し、工技センターの屋外と軒下で暴露試験を行いました。現在も経過を観測中ですが一年経過した時点ではスギ、ベイマツ、青森ヒバの間に割れや浸食等の物理的な劣化に関する顕著な差異は見られていません。

また、木製サッシの防火設備の遮炎性能試験を（財）日本住宅・木材技術センターで行い平成二十四年三月に合格したところです。

木製サッシは価格が高いことから、いかに低コストに抑えるかが、今後の課題です。

県産スギを使用した木製サッシ

### ◆おわりに

今回の共同研究により開発された県産スギ材の木製サッシが実用化され、多くの建築物への導入が期待されるところです。

また、今後も県産スギ材の利用拡大に向けた技術開発に取り組んでまいります。

〔森林研究研修センター〕

# 森の人紹介

## 森の恵みを活用し地域おこし

### 五十嵐　幸一さん

尾花沢市在住の五十嵐幸一さんをご紹介します。

五十嵐さんは、昭和十九年生まれの六十八歳で、北村山森林組合の理事を務める傍ら、所有林の経営管理のほか、北村山管内の森林整備にも尽力してきました。一方、生まれも育ちも尾花沢市細野を自負し、心から故郷の細野を愛する五十嵐さんは、昨今の中山間地域の疲弊ぶりに、その行く末を案じて様々な地域おこしに取り組んできました。

まず、地域の活性化を目指す団体の設立に尽力し、細野地区全域を母体とする「清流と山菜の里ほその村」が平成二十二年四月設立されました。住民同士の話し合いの中で、世帯数八十一戸、人口二百九十四人、高齢者率三十六％（平成二十二年四月一日現在）の地域が、「十年後二十年後先を見つめた地域づくりをしよう！」と考え、この地域で生きていくなら現状から抜け出し、みんなで知恵を出し合い、工夫しながら行動を起こしていくことにしました。その結果、この地域には、きのこや山菜などの地域資源があり、それらを活用した地域づくりを展開していくことになりました。

この方針に沿って、平成二十二年以降、山形県森のめぐみ王国やまがた支援事業を活用した生産体制の整備として、原木なめこのほだ場造成、わらび栽培発生環境整備、特用林産物加工施設の整備（加工施設一棟、真空包装機一台）を実施するとともに、山形県自然栽培きのこ・山菜販売促進事業を活用した販売体制の整備（商品ラベル、外販用のぼり旗の製作）などに取り組んできました。

このほか、県の特用林産物の研修会にも積極的に参加し、生産技術の向上や販路拡大に向けて、日々勉強を欠かさず、住民への情報提供や独自の勉強会なども開催しています。

今後とも、仲間との協働による「清流と山菜の里ほその村」の取組みと、五十嵐さんが目指す地域振興に向けた取組みに対して、県としても応援していきたいと思います。

〔村山総合支庁森林整備課〕

# 森の人紹介

## 山登りに魅せられて

### 遊学の森　案内人会　会長　笹原　忠昭さん

遊学の森案内人会会長の笹原忠昭さんをご紹介します。

笹原さんは、昭和十七年生まれの七十歳。遊学の森案内人会の二代目会長として六十一名の案内人をまとめる眼差しはやさしく、大変温厚で人間味あふれる方です。

笹原さんが山登りの魅力に取りつかれたのは小学校六年生の時、子供達だけで苦労して神室山に登った達成感が忘れられず、それがきっかけで地元の山だけでなく北アルプスへも足を伸ばすようになりました。

案内人になったのは、山登りの魅力や山で出会った動植物の話を人に伝えたいとの思いからだそうです。

笹原さんが案内人として特に力をいれてきたのは、地域資源の活用と地域の人々との交流です。代表的な活動として、「有屋峠道」の保存活動があります。遊学の森のある金山町有屋地区では、長年語り継がれている秋田県への峠道を平成十九年に道跡を確認したことは、有屋地区民と湯沢市民との新たな地域間交流を深める大きな架け橋となりました。

また、遊学の森では、来場者に自然環境の大切さを伝えるために造成したビオトープの保全活動があります。植物や昆虫の調査、歩道の整備、ガマ、ヨシの刈払いなどの保全活動の結果、数多くの水辺の植物、昆虫を観察することが出来るようになり、動植物の観察を通して交流の輪が広がって行きました。今では、山形県の絶滅危惧種とされる動植物も数多く確認されています。

笹原さんの遊学の森案内人会長としての願いは、「案内人の一人ひとりが、プログラムの有無にかかわらず遊学の森を気軽に訪れ、自然環境の大切さを伝えるため、積極的に活動するようになること」だそうです。

こんな笹原さんと遊学の森を歩いてみませんか？　新しい発見があるかもしれません。

〔最上総合支庁森林整備課〕

# 「村山版森のようちえん」の普及に向けて
## （やまがた緑環境税活用事業）

**◆はじめに**

村山総合支庁では、「やまがた緑環境税」を活用し、幼児期における自然体験活動の普及に向けて、子どもの感性を育み、森林などの自然環境に理解を深めるため、「村山版森のようちえん」に取組んでいます。

森のようちえんのスタート

**◆取組みの背景**

小学校教育においては、環境教育や緑の少年団活動が行われている中で、これからの成長や発達に大きな影響を与える幼児期に、身近な森林に触れ合う機会をつくり、森林への親しみと豊かな成長を育むことを目指して、この取組みが始まりました。

**◆これまでの取組み**

「村山版森のようちえん」は、平成二十一年度から平成二十三年度までに、県民の森や西蔵王公園などで、保育施設や一般公募により、取組みを重ね、検討委員会において、課題の解決のアドバイスを受けるなどして、「村山版森のようちえん」の姿を作り上げてきました。

また、保育士や森林ボランティアなどを対象に、自然体験や運営方法などに関する研修会により、実践に向けた人材を育成し、森のようちえんに対する理解を深めました。

森のようちえんでの子ども達の様子は、自主的に行動する姿や活き活きとした表情が見られました。

取組み後の意識調査では、「子ども達は、失敗を恐れず、何事にも意欲的に取組む姿が多く見られるようになった。」などの意見がありました。

また、保育者からは、「自発的に外で遊び、自然と触れ合いたいと思う心が芽生えるきっかけになった。」などの意見が多くありました。

子ども達の様子

その一方で、この取組みは、特定の保育施設に限られていることや育成した人材の活用などの課題があることが分かってきました。

**◆これからの取組み**

これまでの成果と課題を踏まえ、平成二十四年度からは、森のようちえんの取組みを広げるため、地域の中核となり、先導的に行う施設を育成し、その取組みから普及していくことにしました。また、活動発表大会を開催することにより、取組みの拡大を図ってゆきます。

今年度の森のようちえんは、中核施設の「はらっぱ保育園」と「NPO法人クリエイトひがしね」が取組みます。また、幼児教育関係者などを対象に、森のようちえんの理解を深め、普及するための研修会を併せて行います。

「体験活動が育む想像力」（保育者研修）

**◆おわりに**

「村山版森のようちえん」の取組みにより、身近にある森林でひとりでも多くの子ども達がのびのびと自然体験できる取組みが広がり、森林への理解が深められるよう取組んでまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

# 林業機械化の現状と課題

## ＝高性能林業機械実践研修モデル事業からの展望＝

国の「森林・林業再生プラン」では、十年後に国産材自給率を五〇％に引き上げる目標を掲げ林業の再生を図るべく総合的な施策を展開しております。

この背景には、将来、少子化の進行による住宅着工数の漸減に伴う構造材需要の減少があり、その一方では、森林に、再生エネルギー源として期待する新たな国民的ニーズに応える意味合いがあります。

こうしたことを林業生産活動を通して実現していくためには、林業生産コストを低減させ、収益率の改善を図ると同時に、生産される材を消費する市場の拡大が必要です。この中で生産コストの低減を図る有効な手段としては高性能林業機械を核とした低コスト作業システムが考えられますが、本県の現状では、これらの高性能機械が効率的に稼動できる路網の整備水準が低く、ロットとしてのまとまりが乏しいことに加え、零細な林業事業体が多いこともあり高額な林業機械を簡単には装備できない事情があります。

こうしたことから、林業公社では、昨年度、高性能林業機械の作業システムへの移行を考えている林業事業体を対象に、自らの低コストシステム構築に必要なノウハウを得るため高性能林業機械類をレンタルで借受け、間伐等の作業を試行する場合の助成事業を、県の補助事業として実施いたしました。

これらレンタル機によるシステム構築は、投資の平準化の面で有効であるものの、林業機械のレンタル市場は狭小であり、今回実施した中でも、事業体が想定する機種や時期とは一致しない面もありましたが、そうした制約があった中で、事業体では、手持ちの専用機との組み合わせで不足する機能を補うなど、システムを改善する工夫も見受けられ、ノウハウの蓄積の面では成果が得られたものと考えております。

今回の助成事業は、八事業体、九現場で実施され、全体的な労働生産性の向上率は、一四二％となり有意性が認められましたが、高性能機械の稼動条件として、ロットのまとまりが重要だとされる中において、一〇ヘクタール未満では一八三％、一〇～二〇ヘクタールでは一〇九％、二〇ヘクタール以上では一八五％の向上率となり、ロットの規模に応じて漸増する結果にはなりませんでした。

これらは、標本数が少ない中で、機種選定の制約からの組合せのミスマッチ、路網の未整備などの阻害因子が直接反映されたことによるものと考えています。

また、今回実施した結果から見えてきたことは、高性能機械などの多機能機械は、単一機能においては専用機にかなわないという点です。例えば、フォワーダについては、林縁に少量ずつの間伐材が集積されているものを車載のグラップルでピックアップしながら集材するには極めて効率の良い機械ですが、トラック道まで長距離の集材の場合は、グラップルの搭載で積載量が減じられた分不利に働くことから、グラップル専用機と積込み機能なしのフォワーダの組み合わせなど、その現場の条件によって投入する機械や作業の仕組みを弾力的に変える等の対応が必要であると考えます。

また、集材路の幅員が狭い現場に、複数のフォワーダを投入した場合は、すれ違いの待機時間が工程に大きな

スイングヤーダによる集材作業

プロセッサによる造材作業

影響を与えてしまうことから、積み込み時間との比較の上で、すれ違いを必要としない重連での運行などを検討する必要があります。

また、プロセッサの能力を最大限に引き出すには、複数の集材経路の要の部分にプロセッサを配置し、造材した素材を直接トラックへ積み込む形が理想的ですが、この場合は、作業ポイントまでは全幹集材となりますので、このシステムにハーベスタを投入した場合は、ハーベスタの造材機能を活かせずチェンソー伐採が有利となる場合がありますし、手持ちの高能率機械のみの組み合わせでも高性能機械と同等の機能が得られる場合もありますので、高性能という名前に惑わされずに、現場条件にあったシステムの構築が必要です。

このように、システム構築を考える上で、作業環境の熟度に応じた考え方が必要で、一足飛びに高性能林業機械の作業システムへの移行を考えるのではなく、各事業体の現有機械の償却期間を考慮し、徐々に置き換えていく考え方がより現実的であり、合理的ではないかと考えます。

高性能林業機械を導入する最大のメリットは、安全でかつ労働生産性の向上にあります。しかしながら、労働生産性の向上が、林業経営収支の改善に直結しない場合があることも考える必要があります。

労働生産性の向上は、市場への過剰供給による値崩れのリスクを内在しておりますので、生産性の向上と同時に、市場の拡大や新たな消費市場の開拓、生産現場と市場をコーディネートする調整機能の構築等を同時に進めなければならないものと考えます。

林業公社としても、この事業を通し、事業体に低コスト作業システムのノウハウの蓄積を進めることと併せ、事業体のマネージメント能力の向上を図り、本県林業再生の一助となるよう努力してまいります。

〔財団法人山形県林業公社〕

ハーベスタによる伐倒作業


緑の募金

# 緑の募金 秋の募金期間 9月1日⇨10月31日

「緑の募金」は、皆様からのご好意により寄せられた募金です。皆様の自主的な「森林づくり・緑づくり」活動のために役立てていくこととしております。

主に、学校や公園で行う身近なところの緑化や、林業まつりなどのイベントの開催、里山での森づくり、川上・川下地域の交流による森づくりなどの森林整備に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

財団法人 山形県みどり推進機構

〈事務局〉〒990-2363　山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL(023)688-6633

# 緑のアドバイザー

## 財団法人 日本森林林業振興会

秋田支部　山形出張所長　早坂隆雄　〒990-0045　山形市松栄1-5-41 TEL・FAX 023(647)8450

秋田支部　支部長　伊藤広一　〒010-0001　秋田市中通6-7-9 TEL 018(832)4040　FAX 018(835)6837

# 県立酒田光陵高校生徒による森林ボランティア

## ～森づくりの伝統が新高校に引き継がれました～

庄内総合支庁では、出羽庄内公益の森づくり事業の一環として、森林ボランティア活動の支援に取組んでいます。ここでは、今年度六月二十一日に実施された酒田光陵高校の活動を紹介します。

### ◆県立酒田光陵高校について

酒田光陵高校は、平成二十四年四月に県立酒田北高校、県立酒田工業高校、県立酒田商業高校及び市立中央高校が統合して開校しました。周囲には万里の松原と呼ばれるクロマツ林があり、辺りは飛砂や潮風から守られています。しかし、建設工事の際には、やむを得ず樹齢百八十年にも及ぶクロマツを一部伐採しました（根元部円盤は同校図書室前に展示されています）。こうした背景もあり、酒田光陵高校から、ぜひ森林ボランティアに取組みたいと要望がありました。また、統合前は各校で継続的な森林ボランティア活動を実施してきたので、それらを途絶えさせたくないという思いもありました。

### ◆四月初頭の暴風の影響

四月三～四日のいわゆる爆弾低気圧により、庄内管内では農業用ハウスが飛ばされるなどの甚大な被害がありました。海岸林においては、強風で折れたクロマツの枝や幹が大量に散乱しました。これらの枝条は景観上よくないだけでなく、森林管理作業の障害にもなります。万里の松原でもボランティア団体等による枝条回収が実施されましたが、なにしろ範囲が広すぎるのでとても手が回らないというのが実情でした。

散乱した枝条

### ◆生徒による枝拾い

高校の規模は、生徒と教員を合わせると千三百人以上にもなります。今回は人手の多さを活かし、約四十ヘクタールのクロマツ林の中で枝拾いをしました。枝はフレコンバックやブルーシート等を用いてまとめて運び、指定された箇所に集積しました。また、落ちている一般ゴミや空き缶等も集めました。

ブルーシートによる枝の運搬

今回は、本当に多くの方々に協力していただき、総勢約千四百人によるかつてない規模の活動になりました。以下協力団体です。地元ボランティア団体（万里の松原に親しむ会及び庄内海岸のクロマツ林をたたえる会）、大場建設株式会社、北庄内森林組合、庄内森林管理署、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター並びに酒田市（農林水産課、環境衛生課及び都市計画課）。

ボランティア活動後

### ◆おわりに

開校記念ともいえる全校ボランティア活動は、大きなけがも無く無事に終えることができました。生徒たちは、社会貢献活動に取組み、地域の財産であるクロマツ林を保全することの重要性を実感できたのではないかと思います。このような活動を継続していけるよう、今後も支援してまいります。

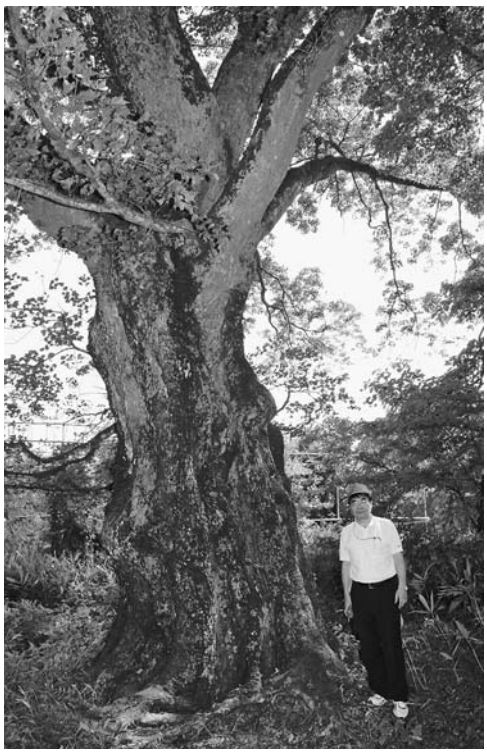
（庄内総合支庁森林整備課）

山形県の古木・名木 111

# 角沢のイタヤカエデ

新庄市角沢清水

新庄市の清水地区にイタヤカエデの巨木が二本並んで立っています。太い方は、二〇〇三年六月最上山岳会の計測により、幹周が岩手県洋野町（旧大野村）のイタヤカエデと並んで東北一位タイと分かりました。幹周五・六m、樹高二十五mで、樹齢は六百～八百年と推定されています。隣のイタヤカエデは、幹周四・一m、樹高はほぼ同じで、二本合わせて「夫婦カエデ」とも言われています。〔県森林協会〕



（案内略図）

公共木造施設 75

# 子育て支援住宅

最上郡大蔵村清水

完成年度　平成23年度（平成24年4月入居開始）
延床面積　944㎡（5世帯／棟×2棟）
構　　造　木造２階建（長屋式）
特　　徴　村民の子育て支援を目的に建設された住宅で、小学校までの子供がいる世帯又は出産予定の世帯が入居者の条件となっています。構造材には主に県産スギ材が使用されており、また、天井にはスギのムク材が使われています。家賃も安く木の香りがするなど入居者には好評で空き戸数はわずかとなっています。

## 林業労働者のための
# 振動障害特殊検診を実施します!!

実 施 日：
①平成24年10月16日（火）
②平成24年11月６日（火）
③平成24年11月15日（木）
④平成24年11月29日（木）
⑤平成24年12月13日（木）

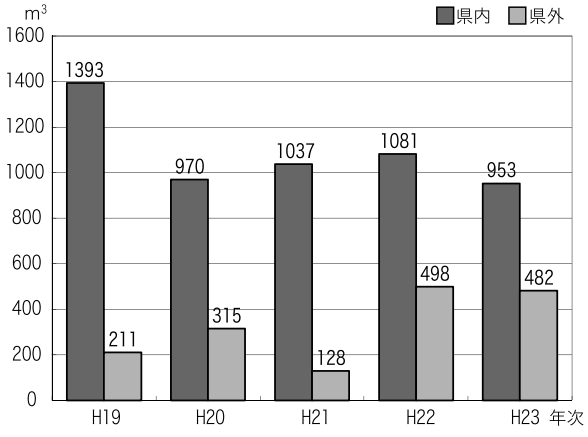
実施場所：
①【最 上 地 区】　真室川町公民館　研修室1・2
②【庄 内 地 区】　庄内総合支庁　分庁舎
③【北村山地区】　鈴木内科医院
④【置 賜 地 区】　置賜総合支庁　講堂
⑤【村 山 地 区】　山形森林総合センター

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部　TEL：023-666-4810　FAX：023-666-4811

# きのこ用原木の安定供給に向けて

山形県内のきのこ栽培の現状は、全国的な傾向ですが、生産性の高さから菌床栽培が主流となっており、しいたけで比較してみると菌床栽培による生産量が約千三百二十一トンであるのに対し、原木栽培は約百六トンと十分の一程度です。しかしながら、本県の原木しいたけ生産量は全国二十九位、原木なめこの生産量にいたっては全国第一位と有数の原木きのこ生産県となっており、約五百人の方が原木きのこの栽培に取り組んでいます。

シイタケ原木流通ルート別供給量




【出典】平成22年次特用林産基礎資料

しかし一方で、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、放射性物質の飛散等により、きのこ用原木の供給に大きな影響を与えており、全国で多くの生産者が原木の調達に支障をきたしています。

こうしたことを背景に、県内の原木需給を円滑に進めるため、県では七月二十日、山形県木材資源特用林産利用促進協議会を開催。ご出席いただいた県内の素材生産団体やきのこ生産関係者の方々約二十人の各委員から、新たな原木の供給に向けた積極的な意見をいただいたところです。こうした各委員の提案を受けて、県では今後もきのこ用原木生産者の方に対し、供給への協力を働きかけていきたいと考えています。

また、県では、きのこ用原木の需給調整を行っています。きのこ用原木の生産者の方とのマッチングをお手伝いしておりますので、原木の入手が困難な方は、ぜひお問い合わせください。

（電話　〇二三―六三〇―三三七三）

〔県農山漁村計画課〕

# 県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業
## お住まいの市町村を通して県産認証材を利用した住宅建築を助成します

**◆事業概要**

住宅建築分野における県産木材の需要拡大を図り、県内の森林資源の循環利用の促進及び木材関連産業の活性化をねらいとして、市町村が県産木材を使用して住宅を建築する方に対し助成する場合に、当該市町村に対して県が補助金を交付するものです。

なお、当事業における県産木材とは、やまがた県産木材利用センターが実施する「やまがたの木」認証事業により産地証明された木材となります。

**◆補助対象となる住宅**

補助金の対象となる住宅は、次の各号のすべてに該当する住宅です。

一　県産木材を構造材（梁・土台を除く）の材積比七〇％以上（※）に使用した新築の住宅

※「山形の家づくり利子補給制度」を併用する場合は、八〇％以上が条件となります。

二　主要部材の組立て施工が完了し、平成二十四年度中に現地確認が可能な住宅

三　一定の省エネルギー基準を満たすこと（高効率給湯器・ペレットストーブ・薪ストーブ等の設置）

なお、市町村によっては、別途要件を設けている場合もありますのでご注意ください。

**◆補助金の額**

県は、市町村が補助する額の二分の一以内（上限十五万円）を市町村に補助します。

各市町村の補助金額については、次項の【実施市町村一覧】をご覧ください。

**◆実施市町村一覧**

今年度、当事業を実施している市町村については、ホームページ「山形県住宅情報総合サイト【タテッカーナ】（※）」をご覧ください。

※　http://tatekkana.pref.yamagata.jp/
↓支援策情報→新築住宅支援→新築住宅支援／やまがたの木普及・利用促進事業

皆様の応募をお待ちしています。

〔県森林課〕

森林やまがた　一四一号

平成二十四年九月一日発行（隔月発行）
編集・発行　山形市松栄一丁目五番四一号　山形県森林協会
監　修　山形県農林水産部
印刷所　渡辺印刷
定価　二八〇円